

熊大病院ニュース



第7号



病院正面

東病棟 光庭



東病棟 1 2 階 屋上庭園

西病棟 ナースステーション

中央診療棟 1 階 廊下

東病棟 1 階 廊下

CONTENTS

特集 P2
「敷地内全面禁煙と禁煙外来について」

新任診療科長紹介 P3
新任副看護部長紹介 

知っ得！納得！ P4

私のカルテ
Q & A



診療科・部門紹介 P5


代謝・内分泌内科

医療情報経営企画部

新設センターの紹介 P6

地域医療支援センター
(地域医療システム学寄附講座)
新設寄附講座紹介
(地域専門医療推進学寄附講座)



看護部だより P7
熊本がんサロンの紹介 

掲示板 P8

TAKE FREE

熊大病院
広報誌



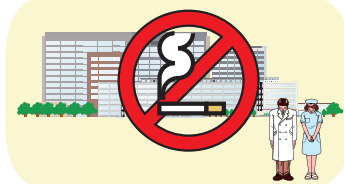
病院敷地内全面禁煙のお知らせ

熊本大学医学部附属病院は、平成19年12月1日から敷地内全面禁煙を実施してまいりました。

喫煙は、肺がんや喉頭がんを始めとする多くのがんや循環器疾患等を誘発しますが、副流煙による受動喫煙によりたばこを吸われない周囲の人々にも健康被害が及びます。

本院は、分煙方式では受動喫煙は避けられないと判断し、病院敷地内全てに亘り、教職員はもとより、患者様やそのご家族及びお見舞いの方など、病院出入りの全ての方々に全面禁煙へのご理解とご協力をお願いしてまいりました。

しかしながら、一部の喫煙者により敷地内禁煙が守られてない状況があり、また、周辺の方々からの喫煙に関する苦情もあることから、平成22年7月1日から、病院の建物内、敷地内(含む中庭、駐車場)および周辺道路・公園を全面禁煙とし、もし禁煙を守れない場合は、来院者には退去勧告、入院患者様には退院や転院を勧告することを決定しました。皆様のご理解とご協力をお願いします。



【理念】

熊本大学医学部附属病院

本院は、患者本位の医療の実践、臨床医学の発展及び医療人の育成に努め、地域の福祉と健康に貢献する。

【基本方針】

- ・患者の主訴・希望・期待・要求を尊重する医療の実践
- ・適切で安全安心と高信頼性の医療サービスを仁恵の心で提供
- ・優れた医療人の育成
- ・先進医療の開発と推進

【患者の権利】

本院はリスボン宣言に基づき、患者がもつ次の権利を認識し、それを守ります。

- ・良質な医療を受ける権利
- ・担当の医師、病院、保健サービスを自由に選択する権利
- ・十分な説明を受けた後に、治療を受け入れるか否か自由に決める権利
- ・自身の情報を得る権利
- ・自身の情報について秘密が守られる権利
- ・健康教育を受ける権利

<<看護師募集中>>

あなたの笑顔が熊大病院の顔です。



担当：熊大病院 総務・企画課 人事・労務担当
096-373-5913

<http://www.kuh.kumamoto-u.ac.jp>



「敷地内全面禁煙強化について」

平成22年7月1日から敷地内全面禁煙が強化されました。

何が変わったのですか？



- ① 入院時に禁煙の誓約（禁煙誓約書）をしていただきます。
- ② 病院の建物内、敷地内（中庭、駐車場含む）に加え、周辺道路・公園での喫煙も禁止としました。
- ③ 禁煙を守られない入院患者様には、退院や転院を勧告します。また、主治医の判断で、ニコチンパッチなどの治療や禁煙指導を行うこともあります。
- ④ 禁煙を守られない来院者には退去勧告を行います。



これまでも全面禁煙ではなかったのですか？



はい、平成19年12月1日より敷地内全面禁煙を実施してます。しかし、一部の喫煙者により敷地内禁煙が守られない状況があり、また、喫煙に関する苦情もありました。

どうして周辺道路や公園まで対象とするのですか？



入院中は治療に専念していただく必要があります。受動喫煙の防止、周辺住民への迷惑防止、また、職員の目の届かない場所での事故防止もあります。そのため、病院周辺を含め入院中の禁煙をお約束いただくようにしました。

なお、受動喫煙とは、「他人のタバコの煙を吸わされること」です。喫煙は、肺や喉のがんを始めとする多くのがんや心臓病などを誘発する恐れがあります。また、未熟児や低体重児の原因となる可能性があります。漂う煙を吸わされることで、喫煙者だけでなく、周囲の人々にも同じ健康被害が及ぶのです。このような被害を防止するためにご協力をお願いいたします。

禁煙外来開設のお知らせ

喫煙は習慣ではなくニコチン依存症という病気です

最初は軽い気持ちで吸い始めたタバコ・何度禁煙に挑戦しても止められないのはなぜでしょう。喫煙は単なる習慣ではありません。喫煙は麻薬中毒などと同じく、ニコチン依存症という治療の必要な病気なのです。

上手に禁煙する方法とは

ニコチン依存症は手強い相手です。上手に禁煙するための治療法はないのでしょうか。喫煙は単なる習慣ではありません。喫煙は麻薬中毒などと同じく、ニコチン依存症という治療の必要な病気なのです。

現在、禁煙をサポートする治療としてニコチン置換療法があります。その治療法には、貼り薬による治療と、飲み薬による治療があります。最近では効果の点から飲み薬による治療を受けられる患者さんが増えています。

保険診療で受けられる禁煙治療

保険診療の行える病院にはある一定の施設基準が必要で、当院では今年4月から禁煙治療を保険診療で行えるようになりました。ただし患者さんにも一定の条件が必要です。

禁煙したいと思ったら、まずはかかりつけの先生に相談してみてください。私たちスタッフも禁煙のお手伝いをいたします。

イライラのない生活、健康な生活を送るために禁煙にチャレンジしましょう。

当院禁煙外来のお問い合わせ

禁煙外来担当：096-373-5717

（電話受付時間 8:30～17:00）

あなたのニコチン依存度を調べてみましょう

下の問い10までの質問にお答えください。「はい」1点、「いいえ」0点とし、合計得点を計算します。5点以上は、ニコチン依存症の可能性が高いといわれています。

設問内容	点数
問 1 自分が吸うつもりよりも、ずっと多くのタバコを吸ってしまうことがありましたか。	
問 2 禁煙や本数を減らそうと試みて、できなかったことがありましたか。	
問 3 禁煙したり本数を減らそうとした時に、タバコがほしくてほしくてたまらなくなることがありましたか。	
問 4 禁煙したり本数を減らそうとした時に、次のどれかがありましたか。 (イライラ・神経質・落つかない・集中しにくい・ゆううつ・頭痛・眠気・胃のむかつき・脈が遅い・手のふるえ・食欲または体重増加)	
問 5 問4でうかがった症状を消すために、またタバコを吸い始めることがありましたか。	
問 6 重い病気にかかった時に、タバコは良くないとわかっているのに吸うことがありましたか。	
問 7 タバコのために自分に健康問題が起きているとわかっていても、吸うことがありましたか。	
問 8 タバコのために自分に精神的問題(注)が起きているとわかっていても、吸うことがありましたか。	
問 9 自分はタバコに依存していると感じることがありましたか。	
問 10 タバコが吸えないような仕事や付き合いを避けることが何度かありましたか。	
(注)禁煙や本数を減らした時に出現する離脱症状(いわゆる禁断症状)ではなく、喫煙することによって神経質になったり、不安や抑うつなどの症状が出現している状態	合計



新任診療科長紹介

呼吸器外科 教授 鈴木 実

平成22年4月1日付けで熊本大学医学部附属病院呼吸器外科の教授に就任いたしました。当科の診療方針につきましてご説明させていただきます。

基本方針は、呼吸器外科領域疾患における最先端の診断と治療の実践です。現在診療を受けられる患者さんに最先端の医療を提供することと、将来の患者さんが恩恵を受けられるような新しい医療の確立を目指します。

肺癌を例に挙げて具体的に説明します。いわゆる早期肺癌は適切な手術をすれば、ほぼ完治します。当科では画像診断科の協力により、早期肺癌に対する胸腔鏡下手術を行っていますが、症例数・診療レベルともに世界トップレベルであると言えます。進行肺癌においても、呼吸器内科、画像診断・治療科、放射線治療科と協力体制をとり、積極的に集学的治療（病気の状態に応じて適切な治療を組み合わせる）を行っております。具体

的には、胸腔鏡手術器具を積極的に用いることで、根治性の高い低侵襲手術が可能となりました。また綿密な治療スケジュールによる放射線治療やラジオ波治療は高い局所コントロールが可能となりました。そして、新規抗癌剤を積極的に用いることで、効果的な病勢コントロールが可能となっています。このように、手術だけでは完治しない肺癌に対しても、各科と連携し、各種治療を組み合わせることで、高い治療成績が得られています。

臨床研究面では、肺癌の分子生物学的研究を行い、発癌・進展機序解明に努めており、明日の医療にフィードバックするよう目指しております。

どうぞよろしく願いいたします。



新任副看護部長紹介

看護部 東 絹子

この度副看護部長に就任いたしました。4年間看護教育支援室で、看護師の院内教育や看護学生の実習指導および調整を行って参りました。初年度は教育を担当することになりましたので、今までの経験を活かし看護職員の人材育成に取り組んで参りたいと思っています。微力ではありますが、与えられた役割をこれからも誠実に責任を持って果たしていきたいと考えております。

私たちは多くの先輩や前任の教育担当澤田副看護部長が着実に積み上げられた実績を基に「安全・安心で信頼される看護」をさらに高め、提供できるように努めなければならないと思っています。

現在看護部や看護師教育は多くの課題を抱えております。例えば、昨年法律が改正され、新たに業務に従事する看護職員の臨床研修等が努力義務として規定されました。さらに、高度な医療行為を実践できる「特定看護師（仮称）」制度の創設に向けて厚生労働省も動き始めました。チーム医療の担い手として看護職に対する期待が高まる中、看護部ではさっそく臨床研修制度を導入しました。

従来の院内基礎研修及びプリセプターシップ制度に加え、本年度より各部署に教育担当者を配置して新人教育を行っております。6月からは他施設の新人看護職員研修生の受け入れも開始しました。また診療の補助業務である静脈注射の実施についても、看護師の役割拡大として手がけるなど社会的動向にも対応しております。こうした看護の質の向上に向けた課題に加え、当院は今年度東病棟移転、病院情報システムの更新という大きな課題を抱えています。みんなでハードルを乗り越え、地域の皆様からさらに信頼と評価をいただけるよう、また看護師の皆様からは「熊大病院に勤務して良かった」と言われるような魅力ある職場づくりの推進に寄与して参りたいと思います。

どうぞよろしく願い申し上げます。





私のカルテってなあに?



Q 私のカルテって一体どんなもの?

A 地域のかかりつけ医と専門医が患者様の診療経過を共有できる診療計画表を地域連携パスと
いいます。

熊本県では、「がん」に対して治療のすべての
場面で切れ目のない診療を安心して受けていた
だくために、県下統一のがん診療連携パスが作
成されました。

このパスを患者様自身が持ち歩いていただく
ことができるようにしたものを「私のカルテ」
といます。

「私のカルテ」の中にはこのパスのほか、患者
様ご自身に記入していただく私のプロフィール、
診察記録、医療従事者へ伝えたいこと、のペー
ジがあり、また、お薬手帳も中にはさんで利用
していただくことができます。

Q 私のカルテを持つことの良い点は?

- ・ 病院、診療所、保険薬局等の医療機関、患者さん・ご家族の間で情報が共有できているので、より質の高い、安全な医療が受けられます。
- ・ 拠点病院から遠方にお住まいの方は通院の時間と費用が軽減されます。
- ・ 重複した検査・投薬が避けられます。

Q 誰でも持てるの?

A 熊本県には現在5大がん（胃がん、大腸がん、肺がん、乳がん、肝がん）のがん診療連携パスがあり、その対象になる方に持っていただくことができます。

Q どこでもらえるの?お金はかかるの?

A 県下のがん診療連携拠点病院ががん相談支援室にご相談ください。

費用については私のカルテ導入後、拠点病院での入院時と、かかりつけ医への通院時に保険診療内の自費負担分としてかかる可能性があります。



県下のがん診療連携拠点病院一覧



赤●は、都道府県がん診療連携拠点病院
青●は、地域がん診療連携拠点病院

平成22年7月1日現在



詳しくは、がん診療連携拠点病院の相談員、
熊本県私のカルテがん診療センターのコー
ディネーターにご相談ください。

お問い合わせ先

熊本県私のカルテがん診療センター
(熊本大学医学部附属病院内)

☎ 096-373-5764

コーディネーター 佐藤・鈴木

☎ 096-373-5763

事務 内山

代謝・内分泌内科は、糖尿病、脂質異常症などの代謝疾患と甲状腺や副腎などの内分泌疾患を専門的に診療しています。今回は当科での糖尿病診療について紹介します。

糖尿病の治療には食事療法など生活習慣の改善が欠かせません。当科では外来診療時の指導に加え、教育入院による徹底指導や、糖尿病療養指導士など専門資格者による指導を行っています。



薬物治療はインクレチン関連薬などの新しい糖尿病治療薬を含めて病態に応じた薬剤選択を行っています。インスリン自己注射も積極的に行っており、外来で導入することも可能です。糖尿病はかかりつけ医との密接な連携のもとで治療を継続する必要があります。病診連携体制も強化されました。

糖尿病管理が不十分な場合には全身の血管に合併症を生じる恐れがあります。細い血管の障害（糖尿病網膜症、腎症、神経障害）、太い血管の障害（脳卒中や狭心症・心筋梗塞など）は、いずれも生活の質や生命に重大な影響を与えます。症状が無い方でも年に一度程度は合併症検

査をお勧めしており、合併症検査専用入院コースを設け総合的な評価を行っています。各合併症の治療は眼科、循環器内科、腎臓内科などの専門科と連携し、最適の治療を提供します。また、糖尿病をお持ちの方が当院で手術などを受けられる場合、安全に治療を受けられる様に協力して診療に当たっています。

最後に、糖尿病患者さんやご家族が、糖尿病教室や食事会、ウォーキングの会などを通して患者さん同士の親睦を深め、苦痛のない糖尿病ライフを送って頂けるよう糖尿病患者の会（友の会）を開いています。友の会の活動に興味がある方は当科主治医へご相談下さい。



写真：糖尿病ウォーク2009（熊本城）

医療情報経営企画部

コンピューターが社会の中で広く利用されていますが、医療情報経営企画部ではその流れを病院の中で生かすために、病院内のIT化を推進し、その企画・管理を司っています。病院の中の様々な部署間の多くの情報のやり取りを実現するには、医療の現場で利用するコンピューター端末、情報を中央でコントロールする基幹サーバー群、それらの中で情報の伝達を行うネットワークの管理運営が必須ですが、これらの仕組みの企画を行っています。熊本大病院内の高速光ファイバー網により、高品質での画像伝送を可能とし、診断効率化、診療支援を可能としています。これらの管理と運営は医事課医療情報担当の病院職員と一緒に担っています。

また、病院では患者さん方の情報を診療記録として保管する義務がありますが、これらの情報の保管管理の役目も担っており、熊本大学病院が都道府県がん診療連携拠点病院としての役割を發揮するために「院内がん登録」も実施しています。診療記録管理、院内がん登録は医事課中央病歴室、がんセンターがん登録室と一緒に仕事を行っています。これらに加えて、保険診療の仕組み、正確に保険診療を行うための診療録記載、的確な病名記載のあり方、診療に

関連しての個人情報保護の重要性などの教育を医学部学生、病院職員に行っています。

今年は、東病棟開院とともに病院情報システムの更新を行うことにしております。新しいシステムでは診療の記録も全て電子的に行うことが可能となり、病院内での情報の共有化を一層推進できるものと期待しています。ただ、これだけでは情報の漏えいなどの問題が生ずる可能性が否定できませんので、必要に応じて情報の閲覧を制限できる機能も持たせており、必要な情報が必要な範囲の利用者に伝えられる仕組みとなっています。

今後は、大学病院としての役割を果たすために、今まで以上に地域の医療機関等との情報連携が課題になると考えています。どのように行うことで安全で効果的な情報交換となるかを目指して活動を行うことにしております。

これからも一層のご協力、ご支援を頂きますようお願い致します。



宇宿 功市郎 教授（左側）と廣瀬 隼 講師（右側）

平成 21 年 1 月に本院に新たに設置されました本センターは、院内の重要な組織のひとつとして、以下の3つを主な理念としています。

1. 熊本県全域において、医療提供体制の課題の解決を図る。
2. 地域医療に従事する医師に対する教育等の支援を行う。
3. 本院総合臨床研修センターならびに県内の医療機関と連携し、地域医療を担う医師の養成、派遣、確保に努め、県内の地域医療の充実を目指す。

この理念を遂行するために、熊本県の寄附講座として、本センター内に、「地域医療システム学寄附講座」が平成 21 年 1 月に、「地域専門医療推進学寄附講座」が平成 22 年 4 月に開講し、各々 5 年間、4 年間の期限で運営を行っています。

■ 地域医療システム学寄附講座

熊本県における地域医療の豊富な経験のある黒田 豊特任教授の下、特任講師 1 名と特任助教 2 名の計 4 名で、実務にあたっています。また、熊本県からの研究委託として、病院アンケート調査・国保レセプト調査を行い、熊本県内地域医療の現状を把握するとともに、患者さんの受療行動の分析を行っています。この分析状況から、今後、地域病院が常勤を望んでいる総合医を養成するシステムを検討し、継続的なその人材確保を目指します。さらに、実務の一環として、医師不足が著しい阿蘇地域および天草地域において外来と当直業務の診療支援を行っています。



地域医療システム学寄附講座集合写真
(黒田 豊 特任教授(左から2番目)と特任講師・特任助教)

■ 地域専門医療推進学寄附講座 (新設寄附講座紹介)

平成 16 年度の新医師臨床研修制度の導入を機に、本院がそれまで担ってきた医師派遣による医師の配置調整機能が低下し、地域へ医師を派遣するシステムの再構築が喫緊の課題として求められていたことが、本講座の開講の背景です。院内の主な診療科から、特任准教授 1 名と特任助教 17 名の計 18 名が配置されました。

地域医療の中核を担い、県唯一の医師教育養成機関である本院の立場から、新たな特任ポストの配属による人的ネットワークの強化と医師育成機能の充実化を基盤に、この 4 月から、18 の診療科から県内の公的病院へ医師を新たに派遣し、地域中核病院の診療を中心に支援を行っています。



地域専門医療推進学寄附講座集合写真
(田代 浩徳 特任准教授(左から6番目)と特任助教・スタッフ)



地域医療システム学講座が総合医によって、地域専門医療推進学講座が専門医によって地域医療のさらなる充実を目指し、お互い車の両輪として熊本県の地域医療支援の中核を担って参ります。

■ 恵和会イベント

五月人形の展示

平成 22 年 3 月 31 日(水)から 5 月 31 日(月)まで、外来ロビーと中央診療棟エントランスホールに五月人形を展示しました。これは患者様やご来院の方の癒しのために始めたものです。



財団法人恵和会の助成により開催されている院内のイベント等を紹介します。

七夕飾り

平成 22 年 6 月 30 日(水)から 7 月 7 日(水)の期間、患者サービスの一環として、院内で七夕飾りを行いました。外来ロビーや各病棟に設置された笹竹には、患者様やご家族の方等の願い事が書かれた短冊や華やかな飾り付けが施され、訪れた人の目を楽しませていました。



ちっちゃな夏祭り

平成 22 年 8 月 25 日(水)に入院されている 0 歳～15 歳までのお子様にも、夏祭り気分を楽しんでいただくため、ちっちゃな夏祭りを開催します。今年は、バルーンアートショーを行います。みんなで簡単なものを作って持ち帰りましょう。



昨年の様子

「褥瘡(じょくそう)＝床ずれ(とこずれ)」は長い間「治らないもの」として対処療法、ケアを行ってききましたが、近年、根拠に基づいた治療・予防管理・医療制度の改革により褥瘡医療はチーム医療体制の中で大きく発展してきました。



増田 未散(左側)と黒田 豊子(右側)認定看護師

褥瘡は長期にわたり同じ体勢で寝たきり等になった場合、体と支持面(多くはベッド)との接触局所で血行が不全となり、周辺組織に壊死を起こすものをいい、原因は圧迫や加齢、低栄養、麻痺、乾皮症などの皮膚の状態等多岐にわたります。褥瘡ケアの基本は、除・減圧(支持面の調整と体位変換)、皮膚面の保湿と保清(清潔)、栄養管理が主体となります。現在の超高齢社会において、寝たきりや栄養状態の悪い方が増え、入院患者様の褥瘡発生の危険性は年々高まっています。褥瘡発生のきっかけや程度は様々であり、患者様の状態に合わせた複雑なケアが必要になります。

熊大病院では平成20年度より褥瘡対策室を設置し、皮膚科医師、皮膚・排泄ケア認定看護師、病棟看護師、管理栄養士、医事課職員で構成された褥瘡対策チームメンバーが中心となって活動しています。

チームメンバーは毎週回診を行い、褥瘡がある入院患者様には褥瘡が早く治るように専門的な治療やケアを行なっています。また褥瘡が起こりやすい患者様に対しては、入院時から予防対策を検討し、各病棟の看護師と協力して褥瘡が発生しないように予防として優れた機能をもつ寝具の検討や管理も行っています。



部署には褥瘡専門のリンクナースが配置されていますので、定期的な会議や勉強会を行い褥瘡予防が効果的に浸透するように活動しております。

私たち皮膚・排泄ケア認定看護師は、皮膚が弱い患者様や排泄に困っている患者様の看護も専門に行っています。褥瘡に関するだけでなく、人工肛門や人工膀胱などの処置でお困りの方がいらしたら、褥瘡対策室(内線:5793)までご連絡ください。



熊本がんサロンの紹介

「がん患者同士が気軽に話せる場所がほしい・・・」そんな声が、当院の患者さんを中心に広がり、今年4月に熊本県と熊大病院のがん相談支援室のバックアップを受けて「熊本がんサロン」が誕生しました。サロンには熊本市内からだけではなく、県内遠方からも多くの方が参加されており、参加者は毎回約50～60名となっております。

現在サロンは県内に3ヶ所しかありませんが、今後は県や県内のがん拠点病院などと連携して、県下全域にサロンの輪が広がっていくようお手伝いをしていきたいと考えています。

無理せず、自分の気持ちと相談し「参加したい」と思ったときでいいのです。

- ・・・ダメだと思ったら
- ・・・またそれもいいのです。



サロン会場の様子



サロン代表世話人 池田勇二さん

熊本がんサロン

平成22年4月から開催

開催日時	毎月第3火曜日 10時～12時 (受付開始時刻 9時40～)
会場	熊本大学医学部附属病院 山崎記念館 1階研修ホール
会費	無料(経過を見て検討していきます)
対象	がん罹患患者とご家族 及び支援専門家

* 開催前日までにお電話下さい

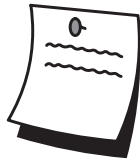
予約電話は、各がん拠点病院の相談支援センターまで

熊本大学医学部附属病院 096-373-5676/5766/5717

場所 熊本大学医学部附属病院 山崎記念館



熊本大学医学部附属病院 がんセンター



外来診療日 (各診療科の◎印は「初診」「再診」を行っています。)

平成 22 年 8 月 1 日現在

診療科名	月	火	水	木	金
総合診療部	◎	◎	◎	◎	◎
呼吸器内科	◎	◎	◎	初診のみ	◎
消化器内科	◎	◎	◎	◎	◎
血液内科	◎	特殊再診のみ	◎	特殊再診のみ	◎
膠原病内科	◎	特殊再診のみ	◎	特殊再診のみ	◎
腎臓内科	◎	◎	◎	◎	◎
代謝・内分泌内科	◎	◎	◎	◎	◎
循環器内科	◎	◎	◎	◎	◎
神経内科	◎	◎	◎	◎	◎
心臓血管外科		◎		◎	
呼吸器外科		◎		◎	
消化器外科	◎	◎	◎	◎	◎
乳腺・内分泌外科	◎	◎	◎	◎	◎
小児外科	◎		◎	◎	◎
移植外科	◎		◎	◎	◎
泌尿器科		◎		◎	◎
婦人科	◎	不妊外来	◎	不妊外来	◎
小児科	◎		◎		◎
発達小児科		◎		◎	
産科	◎	不妊外来 生殖医療 カウンセリング	◎	不妊外来	◎
リハビリテーション部		◎		◎	◎
整形外科		◎		◎	◎
皮膚科	◎		◎	◎	◎
形成・再建科				◎	
眼科	◎	◎	特殊再診のみ	◎	
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	◎		◎		◎
歯科口腔外科	◎	◎	◎	◎	◎
画像診断・治療科	◎		◎		◎
放射線治療科	◎	◎	◎	◎	◎
こころの診療科		◎ (要予約)	◎ 再診のみ (要予約)	◎ (要予約)	◎ (要予約)
神経精神科		◎ (要予約)	◎ (要予約)	◎ (要予約)	◎ (要予約)
脳神経外科	◎		◎		◎
麻酔科・緩和ケア	◎		◎	◎ ◎麻酔科のみ (要予約)	◎

熊大病院は高度医療を提供する「特定機能病院」として厚生労働省から承認を受けています。地域医療機関との分業を行うため、原則としてかかりつけ医（他の医療機関）の紹介状が必要です。円滑な診療のために紹介状をご持参ください。紹介状がない場合でも受診できますが、初回および再初診の際に「保険外併用療養費（選定療養）」として3,150円（自費、平成22年6月現在）をご負担いただきます。

「お知らせ」

東病棟完成に伴う病棟の移転

東病棟完成に伴い病棟の移転が行われます。病棟の移転は、6病棟がメインとなりますが、西病棟の一部診療科も移転対象となっています。

◎ 移転予定日

- 第一期 → 9月18日(土)～9月20日(月)
6病棟及び、西病棟から東・西病棟へ移転が行われます。
- 第二期 → 10月2日(土)
耳鼻咽喉科・頭頸部外科が6病棟9階から西病棟12階へ移転します。
- 第三期 → 12月下旬(実施日未定)
脳神経外科が6病棟8階から西病棟5階へ、神経内科が西病棟9階から西病棟5階へ、画像診断治療科が東病棟6階から西病棟9階へ移転します。

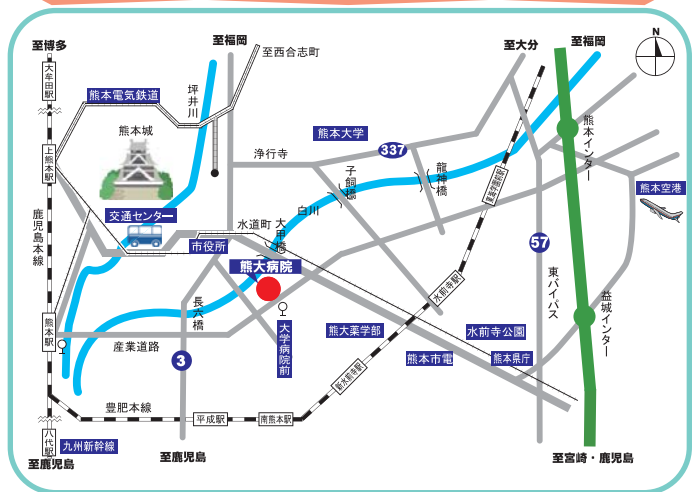
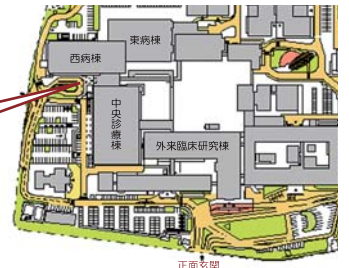
※詳細は、附属病院事務部経営・管理課開発推進担当(内線5956)へお尋ね下さい。

Q & A

ここでは皆様の病院に関するご質問にお答えします。

- Q. 休日・夜間等に面会等で病棟に用のある場合の出入口はどこですか？**
- A. 平日の診療時間(8時30分～17時15分)以外で、面会等で病棟にご用のある方は、中央診療棟西側にある「時間外出入口」をご利用下さい。なお、面会時間は、平日が14時～20時まで、土・日・祝日が10時～20時までとなっております。また、東病棟開院後も、休日・夜間等の病棟出入口は同じ「時間外出入口」となります。**

時間外出入口



熊本大学医学部附属病院

〒860-8556

熊本市本荘1丁目1番1号

TEL (096) 344-2111 (代)

FAX (096) 373-5906

<http://www.kuh.kumamoto-u.ac.jp>